

自己改革

～地域から必要とされ続けるJAをめざして～

自己改革工程表 2025年 [上期半期]

JA津安芸の自己改革

JA 津安芸では、令和7年度は新たな中期3ヵ年計画（令和7年度から令和9年度）を策定し、協同組合としての原点を大切にしながら、新たな計画のもとで地域と農業の未来づくりに本気で向き合い、「地域から必要とされ続けるJA」をめざして全役職員が一丸となって努めております。

中期3ヵ年計画に併せて、JA 自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を実践するため方針・目標を定めた「自己改革工程表」を策定しております。

令和7年9月までの取り組みと成果についてご報告します。

経営理念

**「農業と自然を守り『農』と『住』の調和した、
うるおいと豊かさのある地域社会の実現をめざします」**

当JAは、農業・食・緑・環境・文化・福祉を通して、農業と地域社会の持続性を高め、地域とともに未来を創っていくことを使命として、協同活動と総合事業で豊かなくらしと活力ある地域社会を実現するための事業活動を行います。

JA津安芸 自己改革工程表【文書編】（令和7年度～令和9年度）

JA 津安芸は、組合員との対話に基づいて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革の実践に全力で取り組んできました。令和4年度からは、自己改革実践サイクルの取り組みとして、組合員の声を踏まえ、数値目標を含んだ自己改革の具体的な取り組み等を毎年度の総代会で決定することで、着実に取り組んでいます。

この結果、毎年開催している「春の地区別総代座談会」および「秋の座談会」等においていただいた意見・要望などをJA 事業活動に反映させることで、多くの正組合員から、一定の評価と自己改革への一層の期待、多くの准組合員から、総合事業の必要性や地域農業を応援したいとの声をいただくことができました。

令和7年度からは、組合員との対話を踏まえ、好評である取り組みを継続するとともに、JA 津安芸ブランド商品の生産・販売強化等に取り組むほか、JA 経営基盤強化や組合員との対話・意思反映の取り組みも継続してすすめることで、自己改革のさらなる深化をすすめます。

今後とも、JA 津安芸は、地域になくなくてはならないJA であり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでまいります。

1. 自己改革を実践するための具体的な方針

1. 訪問活動や座談会を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。
2. 「農業者の売上増加・コスト低減」につながる担い手目線で必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である「所得増大」の実現をめざし「地域の活性化」にも取り組みます。
 - (1) 栽培要件に基づいて出荷協力いただける方などを対象として、次のことに取り組みます。
 - ・ しふくのみりのりの作付面積拡大
 - (2) 担い手経営体や多様な担い手などを対象として、次のことに取り組みます。
 - ・ 重点品目野菜の契約取引の拡大
 - (3) 必要とする全ての者を対象として、次のことに取り組みます。
 - ・ オリジナル肥料の取扱い拡大によるスケールメリットを活かした低コスト化
 - (4) 農業金融機能を発揮し、農業者のニーズに応えるため、次のことに取り組みます。
 - ・ 農業者向け事業融資の拡大
 - (5) 「地域の活性化」に向けては、次のことに取り組みます。
 - ・ 農業体験を通じた農業振興への取り組み
3. 改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることでPDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

2. 自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

自己改革の実践にあたっては、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話や地区別座談会のみならず、地域に根ざしたJAをめざして、毎月の職員による家庭訪問活動や地区運営協議会、支店協同活動等を通じて「JA事業の利用と協同活動への参加を通じて、農業・地域経済の発展を農業者とともに支えるパートナー」である准組合員の声も聴くことで、正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現します。組合員の評価を踏まえながら必要な見直しを行います。

また、農業振興の応援団でもある准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、改革の目的である「農業者の所得増大」につながるよう取り組みます。

3. 自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取り組みについて

管内の人口動向は減少傾向にあり、少子高齢化が進展しております。そのようななか、JA津安芸としては経営基盤の強化に向け組合員の増加に努めています。農業経営体は5年前と比較すると全体として2割程度減少していますが、法人経営は1割増加しています。また、農業生産額は上昇傾向に推移していますが、JA津安芸の販売品販売高は、14億円台で推移している状況です。

JA津安芸は、収支シミュレーションを行い、事業改革を進めることで、収益環境の強化を進めております。これからも地域に根ざした協同組合としての役割を発揮し続けるため、全ての事業の伸長と効率化等に取り組み、持続可能な経営基盤の確立をめざします。

JA津安芸 自己改革工程表【数値編】（令和7年度～令和9年度）

1. 農業者の所得増大・農業生産の拡大

| しふくのみりの作付面積拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|------------------------------------|---------|-----------|-------------------------|---------|---------|
| 対象者：栽培要件に基づいて出荷協力いただける方 | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 200ha | (作付面積の拡大) | 100ha | 150ha | 200ha |
| 詳細内容 | | | 令和7年以降の取り組み | | |
| 地域ブランド米の作付提案 | | | 集荷量確保へ向けた地域ブランド米の取り組み強化 | | |
| 重点品目野菜の契約取引の拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| 対象者：担い手経営体や多様な担い手など | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 300t | (契約数量) | 170t | 205t | 300t |
| 詳細内容 | | | 令和7年以降の取り組み | | |
| 生産量の増加 重点品目野菜(ネギ)の契約取引拡大 | | | JAとの自社取引可能な業者との契約取引の増加 | | |
| オリジナル肥料の取扱い拡大によるスケールメリットを活かした低コスト化 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| 対象者：肥料購入者 | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 12,000袋 | (袋) | 8,000袋 | 10,000袋 | 12,000袋 |
| 詳細内容 | | | 令和7年以降の取り組み | | |
| スケールメリットを活かしたコスト低減 | | | オリジナル商品や低コスト資材の提案 | | |

2. 地域の活性化

| 地域の活性化 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|-------------------------------------|--------|--------|-------------------------|--------|--------|
| 農業体験を通じた農業振興への取り組み | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 30回 | (行事回数) | 30回 | 30回 | 30回 |
| 詳細内容 | | | 農業体験等を通じた地域農業の応援団との関係強化 | | |
| 農業金融機能の発揮による農業者の成長支援 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| 農業者向け事業融資の拡大 | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 216百万円 | (実行金額) | 214百万円 | 215百万円 | 216百万円 |
| 詳細内容 | | | 令和7年以降の取り組み | | |
| 経営相談に対応できる農業融資担当者を育成し、資金ニーズに応じた資金提供 | | | 農業融資担当者が出向く活動を実践 | | |

3. 経営基盤の確立・強化

| コンプライアンス未然防止に向けた取り組み | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|----------------------|-----|---------------------------|--|-------|-------|
| | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 4回 | (会議開催回数) | 4回 | 4回 | 4回 |
| 詳細内容 | | | コンプライアンス未然防止に向けた会議での情報共有 | | |
| 総代における女性割合拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 15% | 総代定数のうち女性割合 15% (令和9年度改選) | 14.6% | 14.6% | 15% |
| 詳細内容 | | | 次回総代改選時である令和9年度に向け、女性総代割合拡大の環境作りとして、座談会、専門委員会、女性部との対話を通じて協議を開始 | | |

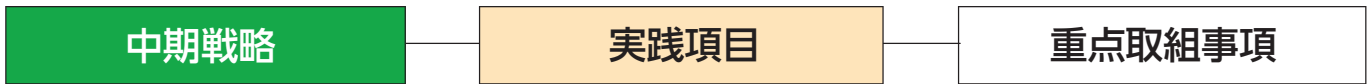
4. 対話・意思反映

| 正組合員との対話 | | 令和7年度計画 | 令和8年度計画 | 令和9年度計画 |
|---|--------|---------|---------|---------|
| | (回数) | 27回 | 27回 | 27回 |
| 春の地区別総代座談会【各7地区で開催】 | | 令和7年度計画 | 令和8年度計画 | 令和9年度計画 |
| ※300人の目標については、全総代数500名の過去5年間出席率平均(57.5%)により60%で設定しています。 | (出席人数) | 300人 | 300人 | 300人 |
| 秋の総代座談会 | | 令和7年度計画 | 令和8年度計画 | 令和9年度計画 |
| ※250人の目標については、全総代数500名の過去5年間出席率平均(42.8%)により50%で設定しています。 | (出席人数) | 250人 | 250人 | 250人 |
| 地区運営協議会会議 | | 令和7年度計画 | 令和8年度計画 | 令和9年度計画 |
| ※目標の54回については、管内27地区で会議を2回開催するとして設定しています。イベントに関しましては、開催回数の目標設定はしていません。 | (開催回数) | 54回 | 54回 | 54回 |

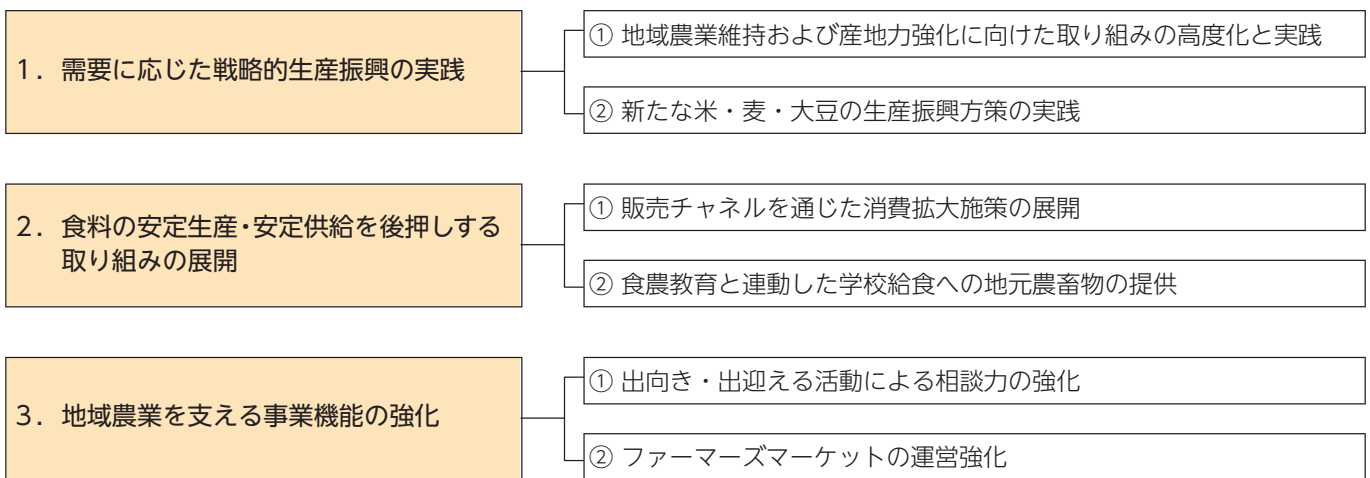
中期3カ年計画(令和7年度~令和9年度)の重点取組事項

令和7年度を初年度として中期3カ年計画(令和7年度~令和9年度)を策定し、自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け、持続可能な農業の確立と地域共生社会づくりへの貢献をめざします。

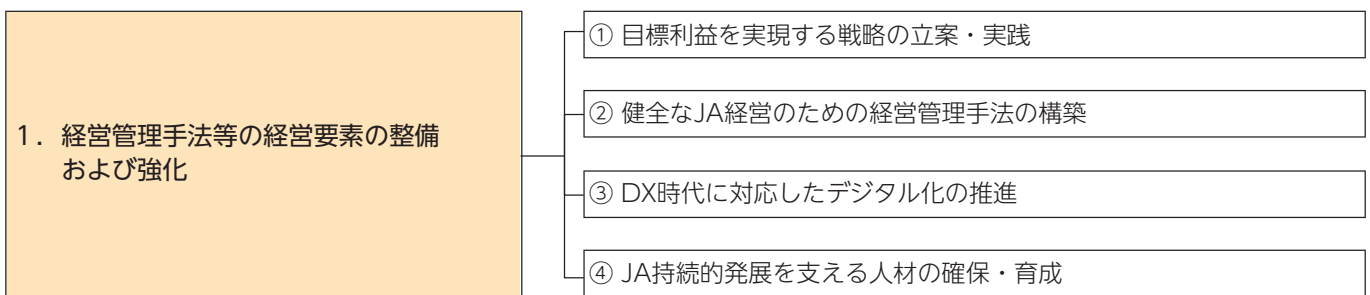
また、環境の変化を見通し、事業の収益性・経営の健全性を確保するための戦略と、農業と地域に根ざした組織としての社会的役割を果たすことを基本として、自己改革実践サイクル(PDCA)による事業活動の実践に努めます。



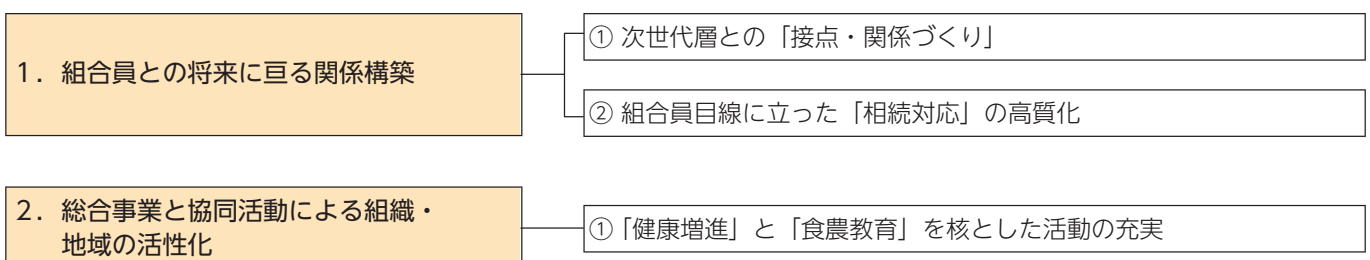
I. 食料・農業基盤



II. 経営基盤



III. 組織・地域基盤



多様な農業者の連携により、「農業生産の拡大」を通じて、「農業者の所得増大」につなげることで、多様な農業が持続的に維持・発展していく「農業振興」の姿をめざします。

●津安芸ブランド米への取り組み

産地の将来の姿を見据えた米の生産販売量の維持・拡大として、しふくのみりの作付面積拡大に取り組んでいます。



| しふくのみりの作付面積拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|-------------------------|---------------|------------|------------|------------|-----------|
| 対象者：栽培要件に基づいて出荷協力いただける方 | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 200ha | (作付面積の拡大) | 100ha | 150ha | 200ha |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 86ha | 第2四半期 - | 第3四半期 - | 第4四半期 - | 計 86ha |

令和7年9月の“新米玄米引渡会”において「特別栽培米」や「至福の一杯」を販売し、1,247俵の販売実績となりました。新米玄米引渡会は、地元で採れた農産物を地元で消費しようとする活動“津産津消”をキーワードとして取り組んでいますが、農産物消費の意味合いだけではなく地元の農地と農業を守る活動として、防災や景観維持など地域自体を守っていくことに繋がる趣旨も含んでいます。

今後も販売業者と連携を図り、JA 津安芸ブランド米として“TSUGOME”の拡大に努めます。

●重点品目野菜の契約取引の拡大への取り組み

重点品目野菜の契約取引拡大の取り組みとして、津市の藩主・藤堂高虎公にちなんで命名した「高虎ねぎ」としてブランド化を推進しています。今後もさらなる認知度と品質の向上に向けて取り組んで参ります。



| 重点品目野菜の契約取引の拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|---------------------|----------------|----------------|------------|------------|------------|
| 対象者：担い手経営体や多様な担い手など | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 300t | (契約数量) | 170t | 205t | 300t |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 39.8t | 第2四半期 35.5t | 第3四半期 - | 第4四半期 - | 計 75.3t |

●需要に応じた生産・提案による生産販売量の維持・拡大

1. 重点品目の生産数量の維持・拡大をめざし青果物については、ネギ・キュウリを中心に生産数量拡大に向け販売先確保に取り組みました。令和7年産米については、高温障害による影響から品質低下がみられました。麦については前年度を上回る集荷量となりました。

また、多彩な品目の生産拡大に向け、産直会員に対し、店舗への出荷依頼を行っています。



| 成果指標 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|------|------|----------|----------|------------|
| 白ネギ | 生産面積 | 557a | 542a | 727a |
| | 出荷量 | 53.7t | 55.2t | 32.3t |
| | 販売高 | 18,885千円 | 20,923千円 | 10,887千円 |
| | 出荷者数 | 17名 | 17名 | 17名 |

| 成果指標 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|------|------|----------|----------|------------|
| 青ネギ | 生産面積 | 280a | 280a | 280a |
| | 出荷量 | 103.6t | 111t | 67.7t |
| | 販売高 | 27,130千円 | 29,099千円 | 15,174千円 |
| | 出荷者数 | 7名 | 7名 | 7名 |
| キュウリ | 生産面積 | 131a | 131a | 131a |
| | 出荷量 | 132t | 135t | 71t |
| | 販売高 | 40,379千円 | 50,126千円 | 22,333千円 |
| | 出荷者数 | 6名 | 6名 | 6名 |
| イチゴ | 生産面積 | 278a | 278a | 295a |
| | 出荷量 | 49.6t | 41t | 12.7t |
| | 販売高 | 67,711千円 | 58,326千円 | 15,074千円 |
| | 出荷者数 | 15名 | 15名 | 17名 |

2. ファーマーズマーケットみどりの交差点では、津産津消をコンセプトに産直会員への商品出荷提案、産直商品をメインとした売り場づくりを行い、商品アピールのためのレシピの配置など品質を重視した販売を積極的に行っています。

また、より多くの方に知ってもらうため、週末に向けた切花・花苗・旬の野菜など、SNSを活用し広報活動も行いました。

今後も安全・安心な商品を取り揃える店としてリピーターの確保に努めます。

3. 株式会社ジェイエイ津安芸と営農部、営農センターと連携し、水稻・小麦・大豆・白ネギの作付維持管理に取り組むとともに、農作業受託体制による作業支援を行い、地域農業振興・優良農地の保全に努めました。

複合経営として、令和5年度より白ネギの作付けを芸濃地区にて開始しています。

| 成果指標 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|------------------------|--------|--------|------------|
| 水稻作付面積 | 5.9ha | 5.8ha | 5.8ha |
| 加工業務用キャベツ作付面積 | 0.9ha | 0.5ha | 0ha |
| 白ネギ作付面積 | 0.7ha | 0.8ha | 0.8ha |
| 作業受託面積(土壌改良資材散布) | 56.5ha | 70.5ha | 0ha |
| 作業受託面積(耕起・代掻き・田植え・稲刈り) | 21.4ha | 21.5ha | 12.3ha |
| 作業受託面積(その他) | 12.6ha | 11.6ha | 7.0ha |

●農業金融機能の発揮

経営相談に対応できる農業融資担当者を育成し、資金ニーズに応じた資金提供に取り組んでいます。

| 農業者向け事業融資の拡大 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|--------------|----------------|----------------|------------|------------|-------------|
| | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 216百万円 | (実行金額) | 214百万円 | 215百万円 | 216百万円 |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 78百万円 | 第2四半期 72百万円 | 第3四半期 - | 第4四半期 - | 計 150百万円 |

物価高騰により影響を受けられた農業者や、新たに農業機械の購入、ビニールハウス等の建設を検討される農業者に対し、災害復旧応援資金の適切な資金提案を行い、農業者支援に取り組みました。

| 成果指標 | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度(上半期) | |
|----------|-------|-----------|-------|-----------|------------|-----------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 農業資金実行件数 | 39件 | 198,840千円 | 48件 | 241,820千円 | 22件 | 150,600千円 |
| 農業資金期末残高 | 446件 | 798,810千円 | 401件 | 790,904千円 | 385件 | 899,291千円 |

●農業体験を通じた農業振興への取り組み

農業体験等を通じた地域農業の応援団との関係強化により農業振興に取り組んでいます。

| 農業体験を通じた農業振興への取り組み | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|--------------------|--------------|--------------|------------|------------|----------|
| | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 30回 | (行事回数) | 30回 | 30回 | 30回 |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 14回 | 第2四半期 13回 | 第3四半期 - | 第4四半期 - | 計 27回 |

●土壌診断や低価格資材の普及による生産コストの低減

オリジナル商品や低コスト資材の提案を行い、スケールメリットを活かしたコスト低減に取り組んでいます。



| オリジナル肥料の取扱い拡大によるスケールメリットを活かした低コスト化 | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|------------------------------------|------------|------------|------------|------------|---------|
| 対象者：肥料購入者 | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 12,000袋 | (袋) | 8,000袋 | 10,000袋 | 12,000袋 |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 - | 第2四半期 - | 第3四半期 - | 第4四半期 - | 計 - |

適正施肥に向けて、土壌診断を実施しました。

低コスト農機の提案や農業機械レンタルの利用促進を展示会で行うとともに、修理整備費用の低減の取り組みとして草刈機無料点検会・メンテナンス講習会を実施しました。

土壌診断に基づく適正施肥推進による施肥量削減によるコストの抑制

| 成果指標 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|-------|-------|-------|------------|
| 土壌診断数 | 453点 | 323点 | 158点 |

銘柄集約や大口先への農家直送制度の活用

| 成果指標 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|--------------------------|-------|-------|------------|
| 農家直送制度 (年特肥料及び大型規格農薬) | 37件 | 39件 | - |

農業機械購入及び修理整備費用の低減

| 成果指標 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|---------------|-------|-------|------------|
| レンタル農機利用日数 | 106日 | 127日 | 42日 |
| 中古農機販売台数 | 59台 | 45台 | 13台 |
| 草刈り機無料点検会整備台数 | 147台 | 123台 | 92台 |
| メンテナンス講習会参加人数 | 70人 | 61人 | 41人 |

今後引き続き自己改革を実践するため、総合事業に磨きをかけ、経営継続に必要な利益を上げるための戦略と、これを実現する経営管理手法などの経営要素を整備・強化し、着実に成果が表れている姿をめざします。

●財務分析及び収支・財務シミュレーションの実施

組織の課題を見える化するために、過去5年間の実績を参考のうえ、新たな計画等を反映させて続く5年間の収支シミュレーションの更新を行いました。また、経営継続に必要な利益を確保するため、「自己改革工程表」に掲げる「重要業務評価指標（KPI）」の進捗管理により事業の運営改善に努めます。



●成長と効率のバランスの取れた戦略立案と計画への反映

中期3カ年計画策定時に目標自己資本比率と目標利益を設定しています。運用部門とリスク情報の共有による信用リスクの管理および各事業部における目標事業利益の達成により、目標自己資本比率の維持に努めます。

●資産の健全性の維持

不稼働・遊休資産の利活用として固定資産の購入希望、賃貸希望などに対し、交渉を行うとともに今後の方向性の検討を行いました。

●適正な経営評価に向けた態勢の構築

投資計画に対する実行状況を把握しつつ、経営評価につなげていくために、事業管理費の進捗および今後の見込みを含めて状況を管理し、中期的なシミュレーションを行いました。

●リスクに対する内部監査の充実と内部管理態勢の構築

業務の健全かつ適切な運営を確保するために必要不可欠なリスク管理態勢やコンプライアンス態勢を含む「内部管理態勢」の適切性・有効性を独立した立場から評価・検証しました。

また、不祥事未然防止および職員のリスクに対する意識向上につながる内部監査の充実に努めました。

コンプライアンス未然防止に向けた会議での情報共有

| コンプライアンス未然防止に向けた取り組み | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|----------------------|-------------|-------------|------------|------------|---------|
| | | | 目標 | 目標 | 目標 |
| 令和9年度 | 4回 | (会議開催回数) | 4回 | 4回 | 4回 |
| 令和7年度 実績 | 第1四半期 1回 | 第2四半期 1回 | 第3四半期 — | 第4四半期 — | 計 2回 |

地域に根ざした総合事業と協同活動を通じて、組合員との関係を深めるとともに、地域共生社会の一員として多様な関係者と連携し、地域の活性化に貢献している姿をめざします。

●意思反映・運営参画の仕組みの構築

令和7年6月に「春」の地区別総代座談会を営農センター単位の7会場で開催し、組合員との対話を実施しました。500名の総代に対し245名の方に参加いただき、20名の総代より33件のご意見を頂戴しました。

また、令和7年6月21日に第38回通常総代会を開催し、186名の総代出席と240名の書面決議により、全議案が原案どおり可決・承認されました。

頂戴したご意見については、今後の事業課題として店舗での掲載や、ホームページ、広報誌等を通じて内外へ向けた発信を行い、事業活動の「見える化」を図りました。



| 春の地区別総代座談会【各7地区で開催】(出席人数) | | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|---|---------------|------------|------------|------------|-----------|-------|
| | | | | 計画 | 計画 | 計画 |
| ※300人の目標については、全総代数500名の過去5年間出席率平均(57.5%)により60%で設定しています。 | | | (出席人数) | 300人 | 300人 | 300人 |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 245人 | 第2四半期 — | 第3四半期 — | 第4四半期 — | 計 245人 | |
| 秋の総代座談会(回数、出席人数) | | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| | | | | 計画 | 計画 | 計画 |
| ※250人の目標については、全総代数500名の過去5年間出席率平均(42.8%)により50%で設定しています。 | | | (出席人数) | 250人 | 250人 | 250人 |
| 令和7年度実績 | 第1四半期 — | 第2四半期 — | 第3四半期 — | 第4四半期 — | 計 — | |

総代会の開催状況

| 成果指標 | 開催日 | 総代数 | 出席総代数 |
|-----------|-----------|------|-------|
| 第38回通常総代会 | 令和7年6月21日 | 500名 | 426名 |

※第38回通常総代会の出席総代数には240名の「書面議決」を含みます。

●事業活動を通じた地域農業者へのサポートの実践

JA共済では、農業における農作業中のケガや農業用施設の損壊、第三者への賠償、自身が万一の時の備えなど農業を取り巻くリスクに備え、様々な保障提案を行い、地域農業者への保障充足に取り組みました。

●多様な組織との連携強化による役割発揮

①「SDGsへの貢献」の取り組み

地域や関係機関との連携強化を図り、事業活動や協同活動を通じて「SDGsへの貢献」につながることをホームページやインスタグラム、広報誌「あぜみち」等で組織内外へ発信を行っています。

当JAは、令和4年9月に「三重県SDGs推進パートナー」に認定されました。三重県内における企業や団体等のSDGsに向けた取り組みを見える化し、県が後押しすることで、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを広げていくことを目的とした制度です。

②地域づくりへの貢献

子どもが安全で安心して生活できる地域社会を創造するため、三重県警察認定の取り組みである、通学時の「子ども見守り活動」に参画し、小学校の通学路に面している金融共済店舗・津給油所の10店舗が「子ども安全・安心の店」として認定を受け、地域貢献活動に取り組んでいます。

また、津市と「高齢者等の見守りに関する協定」を締結し、家庭訪問時での広報誌の配布等を利用した、オールJAによる見守り活動を行っています。

③地域の活性化や地域の結び付きを強化する活動の実施

「支店協同活動」は、組合員・地域とJAをつなぐ協同活動の一つとして、組合員・地域の皆さまとの絆を深め、必要とされるJAをめざし、平成30年より全役職員で取り組んでいます。

農の大切さを伝える農業体験や、行事に参加し地域を盛り上げ、明るい店舗作りによるお出迎えなど様々な活動を行い、地域の一員となり、「親しまれ、信頼され、地域と共存するJA」をめざし、これからも積極的な活動を続けていきます。



| 成果指標 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度(上半期) |
|------|-------|-------|------------|
| 活動数 | 17活動 | 14活動 | 2活動 |

●地域の特性を活かした「地区運営協議会」の活性化支援

理事並びに監事が中心となり「地区の抱える課題を方向付ける協議の場」「地区のご意見・ご要望を集約する場」「JA活動の理解促進の場」として、総代の方々を中心に構成する「地区運営協議会」を管内全27地区に設置しています。

その地区運営協議会が実施する、食農教育活動や地域活動への参加、様々なイベントによる地域貢献に取り組み、また会議を通じて多様化する組合員の皆さまからのご意見・ご要望に対し協議を行いました。



| 地区運営協議会会議(開催回数) | | | | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|--|--------------|-------------|------------|---------------|----------|-------|
| | | | | 計画 | 計画 | 計画 |
| ※目標の54回については、管内27地区で会議を2回開催するとして設定しています。イベントに関しましては、開催回数の目標設定はしておりません。 | | | | (開催回数) 54回 | 54回 | 54回 |
| 令和7年度 実績 | 第1四半期 13回 | 第2四半期 1回 | 第3四半期 — | 第4四半期 — | 計 14回 | |

●資産承継の支援

大切な資産を円滑に継承いただくため、外部講師を招き、相続税に関する知識を深めていただく取り組みとして相続遺言個別相談会を年2回開催しました。また、相続シミュレーションの作成を行い、お客さまのニーズに合った解決策の提案に努めています。



農業の所得増大・生産規模拡大等に向けた支援について

●青果物流通経費支援対策金（令和7年度予算枠：200万円）

令和4年度より「青果物流通経費支援対策金」を新たに設置し、当JA管内で流通する青果物の出荷容器（専用コンテナ）にかかる経費に対して支援を行うことで農業者の生産コスト低減を図り、地域農業の振興・発展に取り組んでいます。

| 成果指標 | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度（上半期） | |
|--------------|-------|---------|-------|---------|------------|-------|
| | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 |
| 青果物流通経費支援対策金 | 20件 | 1,244千円 | 20件 | 1,499千円 | 21件(予定) | 160千円 |

●害虫被害対策補助金（令和7年度予算枠：200万円）

管内で問題となっている有害虫（ジャンボタニシ）による農作物の被害を未然に防止するため、関係機関・組合員等と連携して対策し、管内農業の維持に取り組んでいます。

| 成果指標 | 令和5年度 | | 令和6年度 | | 令和7年度（上半期） | |
|-----------|-------|---------|-------|---------|------------|------|
| | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 |
| 害虫被害対策補助金 | 202件 | 1,760千円 | 230件 | 1,018千円 | — | — |

●津安芸作付振興助成金（令和7年度予算枠：150万円）

JAで振興している作物3品目に対する出荷・販売に対し助成金を交付することで農業者の意欲向上と作付維持拡大を図ることを目的とします。

| 成果指標 | 令和6年度 | | 令和7年度(上半期) | |
|------------|-------|-------|------------|------|
| | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 |
| 津安芸作付振興助成金 | 25件 | 399千円 | 4件 | 45千円 |

●肥料農薬廃棄プラスチック補助金（令和7年度予算枠：200万円）

管内の農業生産において排出される肥料農薬の空容器（廃棄プラスチック容器）処分費用を一部負担することで、環境対策および持続可能な農作物の生産維持と経費軽減を図ることを目的とします。

| 成果指標 | 令和6年度 | | 令和7年度(上半期) | |
|-----------------|-------|-------|------------|-------|
| | 申請件数 | 交付金額 | 申請件数 | 交付金額 |
| 肥料農薬廃棄プラスチック補助金 | 58件 | 284千円 | 33件 | 160千円 |

●体験・観光農園応援事業（令和7年度予算枠：100万円）

JA広報誌に割引券を付けることで、管内の体験・観光農園を通じて地域の方々に農業に対する応援を募るとともに地域農業の維持拡大を図ることを目的とします。

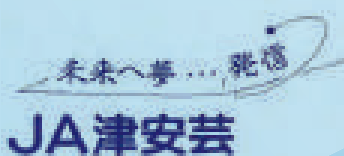
| 成果指標 | 令和7年度(上半期) | |
|-------------|------------|------|
| | 申請件数 | 交付金額 |
| 体験・観光農園応援事業 | 3件 | — |

●事業利用分量配当の実施

事業利用分量配当を令和3年度より実施し、組合員の皆さまに当JAの事業をご利用いただくことにより生じた剰余金の中から、事業分量に応じて配当・還元を行っています。

| 実施年月 | 配当金額 | 基準 |
|--------|----------|---|
| 令和7年6月 | 40,920千円 | 肥料・農薬の購入金額に対して5%及び水稻苗の購入金額、米・麦の施設利用料に対して4% 定期貯金の令和6年度中平均残高100万円以上に対して0.02% |
| 令和6年6月 | 25,045千円 | 肥料・農薬・水稻苗の購入金額及び米・麦の施設利用料に対して4% |
| 令和5年6月 | 21,433千円 | 肥料の購入金額に対して5%、農薬・水稻苗の購入金額に対して3% |

※肥料・農薬・水稻苗、施設利用料の配当金額は消費税を含んで支払いをしています。定期貯金に対する事業分量配当は「利子所得」となる為、利子所得税（国税率15.315%、地方税5%）を控除しています。



津安芸農業協同組合

〒514-0057 三重県津市一色町 211

TEL 059-225-1881

FAX 059-223-0912

HP <http://www.ja-tsuage.or.jp/>

